

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒、保護者、教職員が「みんなの大手前 みんなが大手前」と誇れる学校づくりをめざす。

- 1 生徒のニーズや学力に沿ったきめ細かい授業を展開し、「自己実現のサポート」体制を充実させる。
- 2 幅広い年齢層や多様な価値観を持つ生徒が、「入ってよかったと実感できる学校」づくりを推進する。
- 3 現代社会を生き抜いていくための基本的な資質や能力を備え、「社会の一員として自立」した生活を営むことのできる力を養う。

## 2 中期的目標

1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長 「自己実現のサポート」

(1) 生徒の学力の正確な把握と伸長に向けての取組み

ア 基礎学力テスト等による生徒の学力、習熟度の把握と授業の重点内容への反映

※ 数学基本力調査 漢字検定(自作) 日本語テストの実施

イ 適性検査等による生徒各自が持つ潜在的な能力や適性の把握と指導への活用

(2) 生徒の自己実現を促進するための取組み

ア 落ち着いて学習に臨めるための環境整備と規律指導

※ 学校教育自己診断(生徒)による「授業中は集中している」R6も肯定率85%以上を維持。(R1:87%、R2:85%、R3:85%)

イ 少人数授業や必要に応じた抽出授業による、「授業がわかった」、「授業が楽しい」「力を伸ばし、成長できた」と生徒が思う授業づくりの推進

ウ 授業の創意・工夫や教材の改善等を実施し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力の育成

エ 創意・工夫された授業や生徒の主體的な学びの促進に向け、1人1台端末・ICT機器や視覚教材を使った授業の推進

オ T-NETの活用による生徒の英語コミュニケーション力の向上

※ 英語外国人講師授業アンケートによる満足度R6も肯定率85%以上を維持。(R1:90%、R2:88%、R3:100%)

カ 日本語指導を必要とする生徒への支援体制の整備

※ 授業アンケートによる「日本語指導の満足度」R6には80%以上をめざす。(R2:70%以上、R3:100%)

キ 図書の活用の促進

2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり(スクールソーシャルワークの組織的体制の充実) 「入ってよかったと実感できる学校」

(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取組み

ア 新入生の情報の収集及び中学校との連携強化による支援方策の検討

※ 配慮が必要な入学予定生の出身中学校や福祉機関と連絡を取り、情報共有する。

イ 生徒情報を共有した全教職員による細やかな指導を実施

※ 卒業率についてR6以降も80%以上を維持する。(R1:90%、R2:82%、R3:94%)

ウ 校内生徒支援委員会の機能充実

※ SSW同席による校内生徒支援委員会をR6も年間10回以上実施する。(R1:13回、R2:15回、R3:13回)

※ 支援委員会における個別生徒の状況観察(Observe)、状況判断(Orient)、支援計画の立案・意思決定(Decide)、実践(Act)、のOODAループを確立する。

エ 生徒が気軽に相談できる場所を増やす。

※ 外部人材による生徒支援を継続する。

3 キャリア教育と人権教育の充実 「社会の一員として自立」

(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育の実践

ア 卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実

※ 進路未決定率を少しでも減少させる。R6は15%以下をめざす。(R1:16%、R2:18%、R3:6%)

※ 学校教育自己診断(生徒)による進路指導の満足度をR6には75%以上をめざす。

※ ハローワークや若者サポートステーション等との連携。

イ 社会人基礎力の養成

ウ 就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みの充実

※ 学校斡旋就職内定率についてR6も100%を維持する。(R1:100%、R2:100%、R3:100%)

エ 保護者との情報共有、連携をすすめる。

(2) 人権教育推進委員会の活性化と人権ホームルームの計画・実施

4 学校力の向上 「みんなの大手前 みんなが大手前」

(1) 働き方改革に係る取組みを活用し、組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進

ア 将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討する。

※ 企画調整委員会を検討の場とする。

イ 落ち着いた教育環境の保持及び学校生活のマナーについて組織的な指導体制の構築

※ R6も生徒指導件数をごく少数に抑える。(R1:2件、R2:0件、R3:1件)

ウ 研修と相互研鑽を通じて教職員の力量を高める。

※ 教職員研修を年間6回以上実施する。R6も6回以上実施。(R1:12回、R2:6回、R3:6回)

※ 職員会議の効率化を図り、超過勤務縮減に努めるとともに教職員研修の時間を確保するよう工夫する。

※ 定時制高校相互の授業実践見学や情報共有、他校の先進事例等の研究を推進する。

エ 専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化

※ 外部機関と連携し、情報共有する。

オ 広報活動の活性化(中学校への広報、学校ホームページや学校案内パンフレットの有効活用)

(2) 学習指導要領に基づく授業改善と評価の取組み

ア PDCAサイクルの着実な実施に向け、研究公開授業週間を教職員同士で学びあえる場になるよう工夫する。

(3) いきいきとした学校生活を送るための環境整備

ア 部活動の活性化

イ 保護者との連携強化

※ 学校教育自己診断（保護者）による「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」R6も80%以上を維持。(R1:93%、R2:76%、R3:85%)

ウ 地域との連携による防災活動の推進

※ 地域自治体との共催で災害時避難所実習を実施する。R6まで継続実施する。

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※「□」解決された課題と解決方法等(肯定的意見増加の要因等) 「■」明らかになった課題と要因(肯定的意見減少の要因等)</p> <p>&lt;生徒&gt; □「4 教え方に工夫をしている先生が多い。」(肯定率 94%)「18 授業などでコンピューターやプロジェクターが活用される機会がよくある。」(肯定率 94%)今年度から設けた「21 学校は1人1台端末の効果的な活用のために取り組んでいる。」(肯定率 85%) 授業では「めあて」を設定し、本時の到達目標と内容について示す。ICT機器や端末を効果的に活用し、生徒が主体となる展開、最後に「振り返り」を行う。すべての授業においてこのような取り組みが行われている。 「1 学校に行くのが楽しい」(肯定率 80%←昨年度より 18.3 ポイント上昇)「8 担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる。」(肯定率 91.2%←昨年度より 18.9 ポイント上昇)「6 悩みや相談を親身になって聞いてくれる先生が多い」(肯定率 84.4%)「7 先生はいじめなどについて真剣に対応してくれる。」(肯定率 96.0%) 肯定的意見の割合が高い数値で維持している。「学校に来ること」に興味を見だし、「学校生活についての先生の指導」に納得している。引き続き生徒の相談しやすい関係を築くことが必要である。 ■肯定的意見が80%を下回る項目について 項目は1つ。 「14 部活動は、自分にとって有意義な時間だ。」(肯定率 62.5%) 部活動に参加していない生徒が多く回答している影響が考えられる。生徒の主体的・自主的な活動が基本ではあるが、何らかの対策を講じたい。</p> <p>&lt;保護者&gt;未成年の生徒の保護者による回答数：14 □昨年度に比べ7項目について肯定的意見が減少したが、すべての項目で肯定的意見が75%を上回っている。中でも「1子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。」(肯定率 85.7%←昨年度より 7.1 ポイント上昇)は教職員にとっても次年度の教育活動へのモチベーションに繋がる。 ■保護者の回答率が6割を切っている。昨年度より2割ほど増加したが、回答率を上げる方策の検討が必要である。</p> <p>&lt;教職員&gt; □「8この学校では、創意工夫を生かした「いきいき」の時間を実施している。」(肯定率 82.4%)「9生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。」(肯定率 94.1%)「36学校内で他の教員の授業を見学する機会がある。」(肯定率 100%) 授業の指導方法の研究・工夫・改善への取り組みがみられる。今後、「教員の間で、授業方法等について検討する機会」を積極的に持ち、「他教科の担当者とも話し合いながら指導方法の研究・工夫・改善」にさらに努めていきたい。 「14教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。」(肯定率 100%)「15生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携ができていく。」(肯定率 92.9%)「18この学校は、奨学金教育教材等を活用して奨学金制度等について指導している。」(肯定率 100%)「22生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。」(肯定率 87.5%) 「24人権尊重に関する様々な課題や社会ルールを守る意識育成の指導について、全教職員で話し合っている。」(肯定率 81.3%) 学校生活全般にわたって生徒の指導についての肯定的意見が増加している。今後も学年間での指導内容の共有・継続・改善を実践し、分掌や委員会が明確にした方針等を迅速に共有・実践することで、より向上をめざしたい。 ■「12生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」(肯定率 64.7%)「13様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる。」(肯定率 75%)「21学校として部活動の活性化について工夫している。」(肯定率 46.7%) 教職員自ら問題意識を持ち、改善していく必要がある。 「25教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。」(肯定率 53.3%)「26各分掌</p>	<p>※「■」委員意見 「→」学校説明 第1回（6月30日開催） ■就職には、一般雇用と障がい者雇用があるが、最初から障がい者雇用を受験されるのでしょうか。 ■1学年1学級でされていると思うが、いろんな多様性をもっている生徒に対する学習指導にはどんな工夫がされているか。また、キャリア教育と人権教育は重きを置いてやっており、リンクさせてやっているとお聞きしたが、ポイントとなるのはどこか。 ■御校の説明により定時制へのイメージが大分変わった。ひきこもり・不登校を経験した方が多く来られているという説明があり、自分の認識が変わった。当課でも、引きこもり・不登校の相談業務として、地域協議会のようなものを立ち上げており、御校の参加もいただきながら、連携しているところである。つながりを大切にしていきたい。 ■「3 キャリア教育と人間教育の充実」のところで、1年生を対象にアサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上のワークショップを1回以上[1回]実施する。とあるが、全学年でやったほうが良い。 ■2年次に通う生徒がいる。1年次は欠席しがちであったが、2年次からは学校が楽しいと言っている。少人数が自分に合っていたことや先生方の細かい指導により授業が楽しくなったようだ。この学校に入学して本当に良かったと思っている。これからも学校生活が楽しくなるようにしていただきたい。 ■今の言葉にあったようなところがこの学校の強みである。生き直し、学び直し等、いろんな形で丁寧な指導をやってこられ、見守り続けてこられたのだろうと思う。不登校を経験された中学生の方が学んでおられ、また、中高齢の方が一緒になって教室にいるなど多様な学習環境の中で、丁寧に当事者への指導がされてきたと思う。主体的・対話的な学び、協働的な学びとは、授業づくりの中で、いろんな立場の人が、自然と関係性を結んで、対話したり、学んだりするような主体を育てることである。観点別評価についても、単なる評価の観点がこうであるということではなくて、そういうプロセスをつくるという意味がある。こちらでは関係づくりと観点別評価を同時に大切に進めておられると感じた。 授業が面白い、楽しいことで、授業自体が個人の居場所となって、力を蓄えていける。これらは、授業改革としてつなげるいい機会であり、いい例であると感じる。深く感銘した。</p> <p>第2回（11月17日開催） 1 第1回授業アンケート集計結果及び分析結果の報告 →本年度の上期は、すべての質問において過去最高値（3.5以上） →「授業に対する生徒の取り組み姿勢」「生徒による授業評価」「授業に関する生徒の意識」のすべての分野で肯定率が93%以上。 → 評価平均・肯定率が上昇した理由 ・小中学校で不登校だった生徒においては、学校に登校することで他者と繋がっていることへの安心感や自身の居場所が確保できたことで、自身のペースで学校へ安定的に登校できるようになったこと。 ・高齢の生徒においては、諸事情により高校に通い、学ぶことができなかった環境等があったが、学べることへの喜びを感じていること。 ・外国にルーツを持つ生徒においては、入学前から「大学進学」という明確な目標を掲げていること。 ・卒業予定生においては、社会に出ていくことや自立することをしっかりと意識し、行動できるようになっていること。 →生徒一人ひとりが成長する、変容する背景として考えられること ・誰一人取り残すことのない「わかりやすい授業づくり」をめざした教員の様々な工夫や校内努力によるTTの実践、生徒が積極的に学ぼうとする仕掛けづくりに全教職員で取り組んでいること。 ・外部資源の有効活用していること。 ・様々な課題について教職員間で共有し、自身のこととしてとらえ、全教職員で向き合っていること。 ■学校の教育資源の最も大切なものは、教員の授業力であると思う。日々研鑽した結果がこのような数値に現れたものと思う。 ■どのような教育資源を活用し日本語指導を実施しているのか？ →非常勤講師が、外国籍生徒の日本語理解・国語力の向上のために、国語の授業時に抽出し別室にて日本語指導（週4回）を行っている。 ■今後も続けていくことが大事。 ■グラフから教員の努力を感じる。今後も続けていきたい。</p>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」(肯定率 60%)「35 初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている。」(肯定率 66.7%)「32 この学校では、図書館が生徒に活用されている。」(肯定率 33.3%)

分掌や学年単位での組織的な動きについて認識を共有し、より連携を促進することで改善をめざしたい。部活動の活性化については、年度当初を中心に年間を通じて、部員増加や活動内容の充実を図るための具体的な取組みを実施していく必要がある。図書館の活用については、学校として改善のための取組みが必要である。

■学び直しややり直しの生徒、高齢の方や外国ルーツを持つ生徒の意欲を一層伸ばし、満足につながった所以は、教員全員が自分の課題として取り組んだことであり、教員の努力や授業改革があったからだと思う。

■特徴的な教員の取り組みがあれば報告してほしい。

→すべての教科で毎時間の活用は難しいが、HR や行事の準備等も含めて教員が 1 人 1 台端末の活用を進めており、生徒も徐々に慣れ利用が進みつつある。

■ICT の活用や生徒が自ら考える時間を取り入れることなどにより、3 から 7 の項目(生徒の評価)のすべてにわたって高い数値(95%以上)が出ており、タブレットを使って自分で振り返ったり、考えたり、教員がその時間を与えたりするなど、生徒と対話することをおして学びに道筋をつけているように思う。このことにより、1・2 の項目(生徒が自分でできていること)や 8・9 の項目(生徒が感じていること)のそれぞれが 90%以上という高い数値につながったと思う。

## 3 授業見学

■授業は IT で行われていた。授業を見学して、生徒の満足度の高さがわかった。

■家庭科の授業での幼児向けの教具の作成が新鮮に感じた。作成した物を保育園に届けることはあるのか、または届けることを想定した授業をおこなっているのか?

→届けることはないが、そのような思いを込めて作成している。

■入学前に授業見学をしたことがあるが、改めて授業を拝見した。教室に教員が複数入り込んでおり、その中でフランクに会話ができていたことから、わかりやすい授業ができていると感じ、すごくよかった。

■教員が入り込んで親身になって接していたことや、ある授業では世代や立場が違う生徒の自己表現を大事にしており、授業を通して関係が結ばれ、相互理解が深まっていくように感じた。また、ある授業では、より日常的なものを扱うことで興味関心を高めていたように思った。

## 4 現在の本校の様子・取組み等 および 5 スクールミッションについて

■「個に応じた支援体制」が一番求められるものであると思う。その結果、社会で自立していくということ、生徒像としてよく練られた案であると思う。

■保護者として、「社会の一員として自立」することを大事にしたい。それを方針にさせていただくことはいいことであると思う。

■「みんなの大手前、みんなが大手前」という言葉は抽象的であるがよい言葉だと思う。

■自立というのは個人個人が勝手に自立していくというよりは、いろんな対話を通じて求め合ったりつながり合ったりして、社会で生きていく生き方を見つけていくところがあると思う。「現代社会で生き抜いていく」ということはサバイバル的で厳しいように聞こえるが、一方で協働していくとか、ある意味助け合っていくという面もある。一回間違っても一回失敗しても大丈夫だよというのが、「みんなの大手前」の意味するところなのかなという印象がすごくある。学校は方向性として、一人一人の力を伸ばして自立させていくということで日夜頑張っていると思う。自立という考えの中に多様性を認め合い、弱いところを投げ出しながら自分を回復させていくとか、そのようなプロセスも入っていると思う。このように、「みんなの大手前」や、「自己実現のサポート体制」も素晴らしいので、堂々と誇っても良いと思う。ミッションはミッションとして、教員も生徒も自分のことと思えるようになればいいと思う。

## 第 3 回(2月 20 日開催)

## 1 授業アンケート評価の変化について

■前回の学校運営協議会時に授業を見せていただいたが、教員の尽力により、報告のような結果が数値として現れていくのだなと思った。

■中学校でもいろいろと取り組んではいるが、なかなかここまで成果が上がらない。学力向上に関して特色のある取り組みがあればヒントにさせていただきたい。

→すべての授業を IT で行っている。

どの教科もタブレットを用いて視覚的にわかりやすく提示するなど ICT を活用した授業を行っている。

→1 クラスが 10 名程度の少人数であることを活かし、手厚い指導を行っている。

■前回の授業見学をおして、教員が生徒一人ひとりの力や個性、背景を理解して指導を行っていることがわかった。このことに加え、教員と生徒の関係も良好であること。また、安心できる学校づくりという面からみれば、中学校まで自分のことをなかなか言えなかったり、自己表現できなったり、高齢の方で、ご苦労があり自分の学ぶ力が十分保障されてこなかった等の背景を持つ生徒が、生徒と先生の豊かな関係性を築きながら大手前高校で「安心した学び」ができたのではないかとと思う。

## 2 学校教育自己診断まとめについて

■少人数での学習環境はあったようだ。今後も授業で楽しく学べるようお願いしたい。

■「子どもは学校へ行くのが楽しい」との保護者の肯定的意見が 7.1%増えたとの報告があったが、まさに先ほどの委員の意見は、この部分に該当していると思う。また、ほかの保護者の方々も同じような感想を持たれていると思う。

■「学校に行くと楽しい」と思えることは、生徒からすれば何よりであり、第一歩であると思う。この数字が上がったことは大きいことだと思う。

■結果について、緻密に分析されていることに驚いた。

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

	<p>■生徒の意見で、質問項目7・8・9の回答が、ほぼ100%に近い値となっている。いじめの対応、相談体制についてすばらしく誇るべき数値であり感心した。「守ってくれる」、「相談にのってくれる」、「話を聞いてくれる」という印象がすごくあるのではと思う。それがこれまでに増してあるということである。</p> <p>■「先生が約束を守ってくれる」が97%ということから、教員への信頼感が高いということがわかる。</p> <p>■教職員についての報告では、いじめ等の連携について、数値として少し課題があるということであった。いい意味で受け止めて次に生かしてほしい。</p> <p>3 令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）、令和5年度学校経営計画及び学校評価（案）について</p> <p>■令和4年度の学校評価について、◎が20数個もあり素晴らしく思う。土台がしっかりしているからだと思う。</p> <p>■本校の中学校（昼間及び夜間学級）では、外国籍の生徒が在籍しており、日本語指導が課題になっている。大手前高校（定）では、日本語を指導する専門的な教員あるいは日本語を指導する教員はおられるか？</p> <p>■ネパール語を母語とする生徒が在籍しており、国語科の授業を非常勤の教員が担当し、抽出で授業を行っている。</p> <p>■「校内生徒支援委員会の機能充実」の項目の中で、SSW や SC はどのような体制で関わっていただいているのか？</p> <p>→SSW は府の派遣事業に申請し、年間24回（月に2回、6時間）程度活用している。来校日に合わせて校内生徒支援委員会を開催している。</p> <p>SCについては、別の派遣事業で年間10回（1回5時間）活用している。</p> <p>■食料支援委員会の詳細を教えてください。</p> <p>→食料支援委員会については、本校では、若者で家から離れて自活している生徒の連絡が途絶えた事案が生じ、その生徒のサポートについて中央区の社会福祉協議会に相談し、それが発端となり、子ども居場所事業の推進と一緒に進めることとなった。年間6回の会議に出席し、連携を図っている。</p> <p>令和4年度学校経営計画及び学校評価（案）・令和5年度学校経営計画及び学校評価（案） → 承認</p>
--	---

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 生徒各自が持つ学力の最大限の伸長	(1) 生徒の学力の正確な把握と伸長に向けての取組み	<p>ア・1学年では、高校入学後、定期考査を受験する「方法」の学びも含め、適切な時期を設定し、基礎学力テスト※等を行い、学力、習熟度を把握して、授業の重点内容に反映させる。</p> <p>※数学基本力調査：中学段階の到達度をみる。 漢字検定（自作）：当用漢字の習得度をみる。 日本語テスト：日本語運用能力をみる。</p> <p>イ・2、3、4学年では、高校在学中に適性検査等を実施し、各自が持つ潜在的な能力や適性を把握して、キャリアを考える資料として活用させる。</p>	<p>ア・授業アンケートの項目「授業の進捗や難易度は自分にとって適切である」の肯定率80%以上 [85%]</p> <p>イ・最終学年（3年次、4年次）までに必要な生徒に適性検査等を実施し、ホームルームや「いきいき」（総合的な探究の時間）で活用する。 [実施できた]</p>	<p>ア・肯定率（R4：90%）（◎） 1学年4月に基礎学力テストを実施（○） 数学：今年度は2～4年でも実施。 テストの結果を受けて基礎的内容の充実を図った。 漢字検定（自作）：全学年対象で冬休みに課題を出し、1月に級別で実施済。 日本語テスト：今年度は実施せず。</p> <p>イ・2年生は6月にレディネスを実施。3年は昨年6月にレディネス、今年度は7月に職業適性検査を実施。4年生は、昨年レディネス、今年度春に職業適性検査を実施。その結果を、就職応募先を見極める材料として活用した。（○）</p>
	(2) 生徒の自己実現を促進するための取組み	<p>ア・落ち着いた学習環境で学べるようにするため、全教員で授業中の規律指導を行う。</p> <p>イ・少人数指導による、「授業が楽しい」「授業がわかった」「力を伸ばし、成長できた」と生徒が思う授業づくりに努める。</p>	<p>ア・「授業中は集中して先生の話聞いて学習に取り組んでいる。（授業アンケート）」の肯定率85%以上[90%]を維持する。</p> <p>イ・「授業内容に興味・関心を持つことができていると感じている（授業アンケート）」の肯定率85%以上[85%]を維持する。</p>	<p>ア・肯定率（R4：94%）（○）</p> <p>イ・肯定率（R4：93%）（○）</p>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

		<p>ウ・授業の創意・工夫や教材の改善等を実施し、学習指導要領に基づく三つの資質・能力を育成する。</p> <p>エ・創意・工夫された授業や生徒の主体的な学びの促進に向け、1人1台端末・ICT機器や視覚教材を活用した、魅力的でわかりやすい授業実践を進める。</p> <p>オ・T-NET 講師の活用により英語コミュニケーション力の向上を図る。</p> <p>カ・日本語指導を必要とする生徒への支援スキルを向上させる講習会を行い、支援方法を共有する。</p> <p>・学外の多文化教育研修等に参加して、その知見を共有する。</p> <p>キ・授業で図書館を使用すること等で図書の利用を促進する。</p>	<p>ウ・エ 学校教育自己診断の以下の指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教え方に工夫している先生が多い」(生徒)の項目の肯定的意見 80%以上[89%]を維持する。</li> <li>・「生徒の学習意欲に応じて学習指導方法や内容について工夫している」(教員)の項目の肯定的意見 85%以上[100%]を維持する。</li> <li>・「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」(保護者)の項目の肯定的意見 70%以上[86%]をめざす。</li> </ul> <p>オ・外国語講師に関する授業アンケートにおいて授業満足度 85%[97%]を目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーキングテストを各学年1回[全学年平均 2.5 回]実施し、英語を「話す力」の育成に努める。</li> </ul> <p>カ・授業アンケート「日本語指導の満足度」70%以上[100%]をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加して得た知見を関係職員には毎回、回覧して報告し、職員会議等でも共有する。</li> </ul> <p>キ・授業での活用促進等により図書の貸出数[14]を増加につなげる。工夫を実施する。</p>	<p>ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業満足度 (R4:94%) (◎)</li> <li>・(R4:94%) (◎)</li> <li>・(R4:77%) (○)</li> <li>・(R4:92%) (○)</li> <li>・スピーキングテスト実施回数 (○) 1年1回 2年1回 3年1回 4年1回</li> <li>・(R4:100%) (◎)</li> <li>・職員会議の時間枠短縮に向けた取り組みを実施し、研修に参加した教員の報告により職員会議内で共有した。(○)</li> <li>・前年度より減少 [5冊] 1年オリエンテーションで図書館案内、「いきいき」(総合的な探究の時間)の時間に図書館活用を実施した。今後、各学年が HR の時間での活用を予定。(△)</li> </ul>
--	--	--	--	---

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

<p style="text-align: center;">2 生徒各自に必要な支援を行える体制づくり</p>	<p>(1) 個に応じた支援体制の強化に向けた取り組み</p>	<p>ア・中学校や福祉機関等と連携して、新入生の生徒情報を収集し、「高校生活支援カード」に集約する。</p> <p>イ・全教職員が生徒の情報を共有し、細やかな指導で卒業まで個別支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりへの細やかな支援方を検討する。</li> </ul> <p>ウ・校内生徒支援委員会の機能をさらに充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SC、SSW とのケース会議により個別生徒の状況観察 (Observe)、状況判断 (Orient)、支援計画の立案・意思決定 (Decide)、実践 (Act)、の OODA ループを確立する。</li> </ul> <p>エ・生徒が気軽に相談できる場所を増やす。</p>	<p>ア・「高校生活支援カード」の作成、活用率 100%[100%]を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入学した生徒の出身中学へ訪問して聞き取った内容を SSW と共有する。</li> </ul> <p>イ・卒業率 80%以上[94%]を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による学校教育自己診断の項目「先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。」の肯定率 75%以上[87%]をめざす。</li> <li>教職員による学校教育自己診断の項目「生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。」の肯定率 75%以上[82%]をめざす。</li> </ul> <p>ウ・SSW 同席による校内生徒支援委員会について年間 10 回以上 [13 回]実施を維持する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>OODA ループが確認できるようにケース会議の記録用紙書式「大手前アセスメント・プランニングシート」を支援委員会で資料として必要に応じて活用する。</li> </ul> <p>エ 学校教育自己診断 (生徒) の以下の指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の項目について肯定回答率 80%以上[85%]を維持する。</li> <li>「担任の先生以外にも気軽に相談することができる先生がいる」の項目について肯定回答率 80%以上[72%]をめざす。</li> </ul>	<p>ア・(R4:100%) (○)</p> <p>イ・(R4:94%) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〈生徒〉先生たちは、自分たちが困っていることについて支援してくれる。(R4:83%) (◎)</li> <li>〈教職員〉生徒一人ひとりへの細やかな支援の方策を検討している。(R4:88%) (◎)</li> </ul> <p>ウ・(R4:10回) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「アセスメント・プランニングシート ver. 9」を活用した。改良を検討中。</li> <li>今年度は小委員会を 14 回設定し、より細やかな対応を実施。(◎)</li> </ul> <p>エ・(R4:84%) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内の「コモンスペース」と呼ぶ場所にいる生徒に、全教職員が個別に声掛けをすることで、相談できる雰囲気づくりを行っている。</li> <li>(R4:91%) (◎)</li> </ul>
<p style="text-align: center;">3 キャリア教育と人権教育の充実</p>	<p>(1) 入学から卒業までの期間を見通した、キャリア教育の実施</p>	<p>ア・卒業後の生活設計を考えた、生徒個々の進路指導の充実。</p> <p>イ・社会人基礎力の養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己有用感を高め、自覚的に行動できるスキルを高めるために、アサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上を目的としたワークショップを実施する。</li> <li>就労意識の向上と社会体験を積むことを目的にアルバイトへの挑戦、継続を支援する。</li> </ul>	<p>ア・進路未決定率を少しでも減少させる。18%以下[6%]をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育自己診断 (生徒) による「進路指導の満足度」肯定回答率 70%以上[91%]をめざす。</li> <li>ハローワークや若者サポートステーション、障がい者就業・生活支援センター等と連携し、就労指導のスキルを向上させる。3か所以上の連携先を持つ。</li> </ul> <p>イ・1年生を対象にアサーション・トレーニングやコミュニケーションスキル向上のワークショップを1回以上[1回]実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アルバイト経験を勧めた生徒について、実際に取り組み、また取り組みに向けて行動し</li> </ul>	<p>ア・(R4:6%) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>〈生徒〉将来の進路や生き方について考える機会がある。(R4:81%) (◎)</li> <li>連携先 8カ所 (◎) うち新規連携 3カ所</li> </ul> <p>イ・(R4:1回実施) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アルバイト開始の相談を受けた者は全員アルバイトを開始した。就職活動支援員による面談を実施。</li> </ul>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

	<p>(2) 人権教育推進委員会の活性化と人権ホームページの計画・実施</p>	<p>ウ・就職希望者の内定率を高めるための勉強会や就職試験対策に関する取組みを充実させる。</p> <p>・各学年の進路 HR や進路講演会、個別面談等を通じて就労、進学へ結びつける指導を推進する</p> <p>エ・保護者に学校での指導の様子を知らせ、協力を呼びかけるため、「進路だより」を発行する。</p> <p>・人権教育推進委員会を活性化させ、本校において系統立てた人権ホームルームができるよう、準備を進める。</p>	<p>た生徒が 50%以上[100%]となることをめざす。</p> <p>ウ・学校幹旋就職希望者の内定率 100%[100%]を維持する。</p> <p>・卒業予定者の進路 HR について年間 15 回以上[27 回]を維持する。</p> <p>・1年生、2年生、3年生については、年間 4 回以上実施する。[1年 7 回、2年 5 回、3年 15 回]</p> <p>エ・「進路だより」について年間 5 回以上[5 回]の発行を維持する。(配付、ホームページにアップして周知)</p> <p>・人権教育推進委員会企画のもと、人権意識を高める教職員向け人権研修を 1 回以上[2 回]実施する。</p> <p>・生徒向けの人権講習会(外部講師の招へいも含む)を 1 回以上[1 回]実施する。</p>	<p>(R4:100%) (◎)</p> <p>ウ・(R4:100%) (○) 4人中4人内定。 ・(R4:26回) (◎)</p> <p>・(R4:1年5回、2年10回、3年4回) (◎)</p> <p>エ・(R4:5回) (○)</p> <p>・(R4:5回実施) (◎)</p> <p>・(R4:1回実施) (○)</p>
<p>4 学 校 力 の 向 上</p>	<p>(1) 働き方改革に係る取組みを活用し、組織力を高める教職員相互のスキルアップと外部機関との連携促進</p>	<p>ア 将来の学校像について中・長期的なビジョンを持って検討する。</p> <p>・R3年度より実施の「学年団に担任と担任をサポートする主任をおく体制」が有効に機能しているか検証し、改善点等について企画調整委員会で検討する。</p> <p>イ・落ち着いた教育環境の保持及び学校生活のマナーについて組織的な指導体制を構築する。</p> <p>ウ・研修と相互研鑽を通じて教職員の力量を高める。</p> <p>・研修ニーズを吸上げて計画し、実施後に教育実践に役立ったかを検証する PDCA サイクルで教職員研修を実施する。</p> <p>・職員会議の効率化を図ることで生み出された時間に教職員研修を実施する。</p>	<p>ア 学校教育自己診断(教員)の以下の項目について前年度より肯定率が上昇している。</p> <p>・「問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。」[88%]</p> <p>・「問題行動防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる」[82%]</p> <p>・「適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」[71%]</p> <p>・「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」[71%]</p> <p>イ・学校生活のマナー徹底を図り、生徒指導件数をごく少数[1件]に抑える。</p> <p>ウ 学校教育自己診断(教員)の以下の項目について前年度より肯定率が上昇している。</p> <p>・「研修組織が確立し計画的に研修が実施され教育実践に役立っている」[82%]</p> <p>・PDCA サイクルに則った教職員研修を年間 5 回以上[6 回]実施する。</p> <p>・職員会議について、必要な回数のみ行い、効果的に研修を</p>	<p>ア・R3の各項目より肯定率は低い数値となった。校内での組織的な対応のさらなる向上をめざし、R3.9月より設置した首席会や企画調整委員会で「担任と主任をおく体制」について検討し、課題と次年度の取組みを確認した。(○)</p> <p>・(R4:65%) (△)</p> <p>・(R4:75%) (△)</p> <p>・(R4:53%) (△)</p> <p>・(R4:60%) (△)</p> <p>イ・(R4:生徒指導件数0件) (○)</p> <p>ウ・(R4:80%) (○) 数値は減少したが、昨年以上に計画的に実施され、教員の実践に影響を与えている。</p> <p>・(R4:10回) (◎)</p> <p>・時間は 40 分以内で実施。短縮した時間で研修時間を確保。次年度の回数は精査の上、計画済。</p> <p>・他校の「観点別評価」の実践例の講演受講の内容と、本校での調査結果</p>

## 府立大手前高等学校 定時制の課程

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制高校相互の授業実践見学や情報共有、他校の先進事例等の研究を推進する。</li> </ul> <p>エ・専門的な知識・技術を有する外部機関との連携強化</p> <p>オ・広報活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校への広報で本校の良さをアピールする機会を増やす。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページや学校案内パンフレットの有効活用</li> </ul> <p>・PDCA サイクルの着実な実施に向けて、研究公開授業週間を教職員同士で学びあえる場になるよう工夫する。</p> <p>ア・部活動の活性化</p> <p>イ・保護者との連携強化</p> <p>ウ・地域との連携による防災活動の推進</p>	<p>組み入れる。[新規]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修に参加して得た知見を共有すると共に11月の研究公開授業週間の授業実践で活用する。</li> </ul> <p>エ・区の社会福祉協議会と連携し、「物資食料支援チーム」による支援体制をつくる。</p> <p>オ・中学校向けの学校説明会を2回[2回]行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校への出前授業を行う。[コロナ禍で実施できず]。</li> <li>・大阪市立定時制高等学校進学説明懇談会に参加する。[参加し定時制高校の説明を実施]</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ホームページのブログについて校長ブログ、学校ブログを分ける等工夫して発信回数を増やし、写真も掲載する。月1回以上[月1回以上のべ65回発信(12月末時点)]。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内授業実践研究計画のもと、テーマ設定・事前、事後の共有について「公開授業週間用授業参観シート」等を作成し、活用する。</li> </ul> <p>ア 部活動をする生徒数を前年度より増やす[18人]。</p> <p>イ ・学校教育自己診断(保護者)における「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている」75%以上[85%]を維持。</p> <p>ウ・学校防災アドバイザー派遣事業を活用し、定時制と地域自治会の共催による災害時避難所実習を実施する。[実施した]</p>	<p>を1月に共有。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定時制高校相互の授業実践見学1名で1回(○)</li> </ul> <p>エ・「物資食料支援チーム」として活動し、校内では必要に応じ、物資を配付している。(◎)</p> <p>オ・(R4:学校説明会 2回実施)(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(R4:出前授業 1回実施)(○)</li> <li>・(R4:定時制高等学校合同相談会 R4は開催されず)</li> <li>・(R4:83回発信)(◎)</li> <li>・学校案内パンフレットの改訂版を作成中。(○)</li> <li>・年間計画をもとに目標の設定、授業参観シートの作成、活用と集約・共有を実施済。</li> </ul> <p>ア・部活動をする生徒数(R4:20人)(○)</p> <p>イ・(R4:92%)(◎)</p> <p>関係機関等にも連絡を取りながら、保護者との関係改善に向けた取り組みを実施。</p> <p>ウ・実施した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校防災アドバイザー派遣事業」を活用して作成した災害時の対応マニュアルについて防災士の指導助言を受け、点検した。(○)</li> </ul>
--	--	--	--	--